

ボランティア企画の実施報告書(本学主催のみ)

企画名称 (講演タイトル)	Toyo オンラインボランティアプログラム 2021 「フィリピンの若者をつくる SDGs アクション！」
コーディネーター、ファシリテーター	小林 幸恵さん (特定非営利活動法人 LOOB JAPAN 創設者、代表理事) 吉永 幸子さん (特定非営利活動法人 LOOB JAPAN 理事) Ms. Sale Maravilla (NGO LOOB Program Manager) Ms. Mary May Joy Quiatchon (NGO LOOB Program Manager)
運営・進行	井上 栞里さん (東洋大学3年、国際ボランティアサークル Salamat) 鶴岡 由紀さん (東洋大学3年、国際ボランティアサークル Salamat)
開催期間・日時	Day.1 (事前研修) : 8月9日 (月) 14:00-16:00 Day.2 : 8月17日 (火) 14:00-16:00 Day.3 : 8月18日 (水) 14:00-16:00 Day.4 (事後研修) : 8月21日 (土) 10:00-12:00
会場	Zoom によるオンライン開催
目的	① 「小さな一歩からでも社会を変えていけるきっかけになる」というリアリティを感じ、活動への一歩を踏み出すきっかけを提供すること。 ② 自分自身でさまざまな社会課題に対し、行動するための方法についてヒントを各自が持てるようになること。 ③ 地理的な制約を受けにくいオンライン環境を活用し、遠隔地であるフィリピンの若者と交流できる機会を創出し、広い視野をもった SDGs リーダーの育成をはかること。
参加者数	30名 (本学学生のみ)の数字 この他、LOOB フィリピンスタッフ、フィリピンユースボランティアの参加あり。
協力	特定非営利活動法人 LOOB JAPAN 東洋大学国際ボランティアサークル Salamat
活動内容(概要)	
<p>ボランティア支援室では、ボランティア活動に触れる機会を提供することを目的として、「Toyo 1day ボランティアプログラム」を2019年度に設け、全7プログラムを実施しました。2020年度以降も継続予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大という状況において、開催を見合わせざるを得なくなりました。この間、ボランティア支援室ではさまざまな社会問題への気づきのきっかけや学びの場を創出してきましたが、本学による対面でのボランティア活動原則禁止の措置が継続する中、非対面による具体的な社会的アクションを伴うプログラム開発へのニーズの必要性も高まってきました。</p> <p>本プログラムは、「Toyo 1day ボランティアプログラム」の代替としてということのみならず、オンラインだからこそ距離を超えて人や組織と関係を構築しやすいという効用を活かした、新たな選択肢として位置付けた、オンラインボランティアプログラムの第1弾として企画したものです。フィリピン・イロイロ市を拠点に、社会問題の解決を通じた青少年教育活動を展開している特定非営利活動法人 (NPO 法人) LOOB JAPAN の「SDGs アカデミア」*1をベースに、本学向けの4日間のプログラムとして構成しました。</p> <p>以下、企画に携わっていただいた、国際ボランティアサークル Salamat のメンバーからの報告です。</p>	

ボランティア企画の実施報告書(本学主催のみ)

【Day.1】

事前研修では、SDGs やフィリピンについての基本情報を学び、この研修において詳しく学びたいテーマをグループごとに設定しました。私は、Salamat のメンバーとしてフィリピンのセブ島にボランティア活動で訪れたことがありましたが、今回の研修の中心地であるイロイロ市のことは知らなかったため新たな発見がありました。

特に印象に残っているのは、ゴミ山の近くに住む 17 歳のカルロくんの話です。ゴミ山の近くに住んでいるため、悪臭によってお腹が痛くなったり学校でいじめられたりしているようです。悪臭によってお腹が痛くなるという身体的な健康被害と、いじめられるという精神的な健康被害が問題だと思いました。同じイロイロ市に住む人たち同士でも貧富の差によって苦しんでいる人がいるということは、辛い現実だと思います。そして、イロイロ市民の中には、ゴミ山で生活している人がいるという現実を知らない人もいます。このことから、イロイロ市に住む人々全体がゴミに対する意識を高めしていく必要があると思いました。そして、現地の人々だけでなく日本にいる私たちもしっかり考えていくべきだと思います。自分たちが出したゴミが、どんな人に影響を与えるのかということを知らなければ、具体的なアクションを起こすのはなかなか難しいと思います。そのため、こういったプログラムで SDGs について学ぶということは大きな一歩だと考えます。

また、このプログラムは日本人とフィリピン人という住む環境や直面する問題が異なる立場の人々が意見を交換できる貴重な機会だと思います。この機会を大切にして自分ができるアクションを積み重ねていきたいと思っています。

(東洋大学 3 年、国際ボランティアサークル Salamat 片山 綾菜さん)

【Day.2】

SDGs との関連でごみ問題について講義で学び、フィリピンと日本それぞれの状況についてディスカッションを行い、Day.1 で決めたテーマについてフィリピンのユースと共有の上、私たちにどんなことが出来るかを話し合いました。フィリピンの学生と交流する最初の日ということもあり緊張し、拙い英語でなんとか伝えようとすごく頭を使いました。

ごみをどうしたら減らせるかについてのディスカッションでは、日本の学生が「マイバッグを持っていく」、「買い物リストを作り、買いすぎを防ぐ」などの意見が多く出たのに対し、フィリピンの学生はさらに加えて、ボトルはペンケースに再利用、お菓子のケースは物を入れるために使う、など徹底した案が出てきて、意識の違いを目の当たりにしました。私たちは日々物に囲まれて生きています。ペンケースも小物入れも安く簡単に手に入るけど、それを買うことで環境に、動物に、そして人にどんな影響が出るのかを考えて消費しなければと改めて感じました。これまでどこか他人事で曖昧だった SDGs が、今回のワークショップで、私たちが行動しなきゃいけない私たちの問題なのだという認識に変わりました。

また、フィリピンのユースとの交流で世界の状況をより身近に感じることができ、自分の意識改革につながったと思います。このプログラムで学んだことをこれからさらに更新していき、自分にできることを継続して実践していきたいです。

(東洋大学 1 年、国際ボランティアサークル Salamat 佐々木 小夜子さん)

ボランティア企画の実施報告書(本学主催のみ)

【Day.3】

Day.3 では幸福、家族、ジェンダーについて学び、ディスカッションをしました。

最初のレクチャーでは、主に幸せの定義、ジェンダーをめぐる日本の問題について学びました。難しいと感じたことは、幸せの定義でした。自分が思っていた幸せの定義と、世界幸福調査による定義、文化・宗教観の違いによるその定義の違いが見られ、国や地域、個人個人によって違いがあるため、幸福を定義するのは難しいと感じました。これらの違いは、ディスカッションでの Happiness Pie*2 にも見られ、フィリピンユースの方や、同じ日本人でもそれぞれ幸福を感じる場所や、その優先順位に違いがあり、自分と比較して新たな価値観や気づきを得られることがとても楽しく、有意義な時間でした。ジェンダーに関しては、フィリピンと日本では大きな差があり、日本はやはり大幅に遅れていると改めて感じました。ジェンダーギャップも 156 カ国中フィリピンが 17 位であるのに比べて、日本は 120 位という事実に驚きました。ジェンダーの問題はこれからもどんどん重要視されていくと思うので、個々人が意識をして積極的にこの問題に取り組んでいくべきだと感じました。

(東洋大学 1 年、国際ボランティアサークル Salamat 大貫 花蓮さん)

【Day.4】

一人一人にできる事をチャレンジ動画にして共有することで、4 日間の具体的な総括ができました。

プラスチックゴミを減らす方法や、性の格差に対する解決策を考えるために問題の根本を突き詰めること、私たちの意識や考え方を変えることで改善されたり、改善に一步近づけたりする事がたくさんあることを認識できました。

また“SDGs Learners today, SDGs Leaders tomorrow”ということで、この短い活動の中で私たちは日本とフィリピンの現状や課題を知り、初めてスタートラインに立つことが出来ました。知って終わりにすることなく、ここからは各自が継続して周りを巻き込みながら自分にできる事を行い、ゆっくりでも確実に地球の問題を解決できるプロセスを見つけて未来のために行動していくことが何より大事だと実感しました。

コミュニケーションを図りながらディスカッションをすることは多少の言語の壁を感じたものの、「分かり合う気持ち」のおかげで双方にとって有益な時間を過ごせたのではないかと思います。グローバル化が進む今、学びを辞めることなく世界について幅広い知識を吸収し発信できる力を持てるように努力していきたいと思います。

(東洋大学 1 年、国際ボランティアサークル Salamat 斎藤 亜彩さん)

*1：詳細は、<https://www.loobinc.com/sdgs-academia.html> を参照。

*2：「どのようなことに幸せを感じるか」、その全体を 100%とし、項目別の割合を示す円グラフで表現したもの。パイに見立てているため、この呼称が用いられる。

ボランティア企画の実施報告書(本学主催のみ)

※写真があれば数枚を添付。但し、HP や広報誌に掲載する場合がありますため、被写体の了解を得るなど、掲載可能な写真を提出してください。

